

以前は昼根下付近に雑木林があって、少し丘陵になっていた。湿田で働いていた農家の人達は昼になるとこの乾いた雑木林で休憩をしていた。農作業の合間ここでよく昼寝をしていたため、このあたりを「昼寝」と呼ぶようになったと聞いている。丘陵の土は国鉄の線路工事の土砂として使用され、雑木林もなくなってしまった。

(1998年6月 中羽立 村井酉二郎談)

## 2. ひるね

この「ひるね」はもと「<sup>ひる</sup>比留<sup>ない</sup>奈為」にして、比留は良といい、<sup>ない</sup>奈為は沢という意味の蝦夷辞である。

(1998年 八郎潟広報 畠山四郎

菅江真澄と八郎潟町 5の5)

## 3. ひるね

「ナイ」は川が本流に合流する支谷（本流に注ぐ小さな谷川）を意味する。

(1987年 三浦鉄郎著 新編・秋田の地名)

## ふかやち

八郎潟町 浦大町 深谷地

## ふるやしき

八郎潟町 真坂 <sup>ふるやしき</sup> 古屋敷

「ヤシキ」地名は、村の意であって、中屋敷、新屋敷、更屋敷などは全国的に分布する。なお、この地名は有力者の屋敷をいう場合もある。

(1987年三浦鉄郎著 新編・秋田の地名)

## べっとうだ

八郎潟町 真坂 <sup>べっとうだ</sup> 別当田

八郎潟町史によると、「(室町時代に)村落の中の

多くの寺田、神田、別当田、□□堂田などは寺社に属していたものである。寺社は信仰のよりどころであって、武士や農民にとって重要であったから多くの田地を所有していた。」とある。これからすると、近くにある副川神社に属する田地だったのでこの名がついたことになる。

(作者)

## へかまた

### へかまた道路

下小池から浦大町へ続く農道、現在の石川線。一日市に国鉄の駅が出来てから、副川神社の梵天祭りにはここを通過して参拝する人が一日に200人近かったという。以前「へかまた道路」と云われていた。

道路が通っている地権者(小玉<sup>か</sup>嘉右衛門、北嶋<sup>また</sup>又五郎、北嶋<sup>へ</sup>平治)三人の名前の一部をとって命名されたという。

(1998/7 中羽立 村井酉二郎氏談)

## ほそかわ

八郎潟町 <sup>ほそかわ</sup> 細川

\*\*\*\*\* マ 行 \*\*\*\*\*

## まえがわら

八郎潟町 <sup>まえがわら</sup> 前川原

「前」は館に属し、館の前面にあるという意味。川原は字句の通り、馬場目川の川原。「前」は川・川沿いの地という意もある。

(1987年三浦鉄郎著 新編・秋田の地名)